



地方独立行政法人広島市立病院機構 安佐市民病院広報紙 —第41号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

ご存知ですか？
安佐市民病院の経営形態が
変わりました！
地方独立行政法人化！



安佐市民病院事務長
新谷 恭治

◆地方独立行政法人化

安佐市民病院は、これまで広島市が直接経営していましたが、平成26年4月1日から、他の市立病院（広島市民病院、舟入病院、総合リハビリテーション病院）とともに、「広島市立病院機構」という地方独立行政法人が経営することになりました。この「地方独立行政法人広島市立病院機構」は、地方独立行政法人法に基づいて広島市が100%出資して設立した法人で、広島市が策定した病院運営の基本方針（中期目標）を達成するための中期計画に沿って、病院を運営していきます。

◆変わったこと

地方独立行政法人化によって、こんなことが変わりました。安佐市民病院は広島市の行政組織でなくなり、職員もそのほとんどが市職員（地方公務員）ではなくなりました。したがって、これまでは、市の職員定数や採用方法の制約がありましたが、今後は、必要なときに必要な人材を必要人数確保しやすくなります。また、市の予算編成ルールや契約

ルール等に従う必要がなくなるため、柔軟・機敏に対応できる予算措置や予算執行が可能になります。

さらには、民間企業等との共同研究などの範囲が拡がり、専門性や医療水準の向上が期待できます。

そして何よりも、意思決定の手続きが簡素化されるため、病院を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる運営が可能になることです。

◆変わらないこと

地方独立行政法人広島市立病院機構による経営になっても、安佐市民病院は広島市立の公的病院であることに変わりはありません。これから、救急医療や災害時医療など公的病院の重要な役割を担っていきます。

また、職員を増やしたり最新の医療機器を導入できたりするのも、健全な経営基盤があつてこそです。健全経営に努めながら、安全・安心で高度な医療を提供していきます。

◆変わらないならいいこと

地方独立行政法人化の良い面をいろいろと述べましたが、法人化さえすれば、良い病院になれるものではありません。その成否の鍵を握るのは、やはり、病院で働く職員一人ひとりの意識と行動です。

すべての職員が「もっと良い病院にするんだ」という信念を持って、常に知識を深め、技術を高め、心を磨き、さらなる高みに向かって変わっていくことが何より大切だと思うのです。

安佐市民病院は、経営形態が変わっても、病気と闘う患者さんにとって心強い助っ人として信頼される病院であり続けるよう、今後とも職員一丸となって努めてまいります。

【病院機能評価】



安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

内視鏡センター開設 のお知らせ

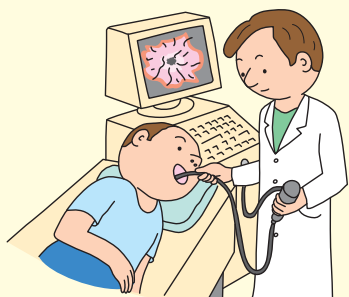


内視鏡内科
永田 信二

安佐市民病院における内視鏡検査数は年々増加傾向にあり平成24年の内視鏡検査数は、上部消化管内視鏡検査 5,423件、下部消化管内視鏡検査 3,345件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査 386件、総検査数は9,154件でそのうち治療総検査数は1,589件でこれまでの内視鏡室では手狭となり、平成25年12月9日にこれまでの内視鏡室と隣接していた脳神経外科（2階の脳神経センターに移動）の外来を一緒にして開設しました。工事期間中は患者さんには大変ご迷惑をおかけしました。

内視鏡センターの概要ですが、広さはこれまでに比べて約1.7倍になり、人員は医師12人、看護師8人、事務員3人、補助員3人の合計26人で運営しております。最新鋭の内視鏡システムを備えた検査台を3台から4台に増設し、要望の多かった鎮静剤使用後のリカバリールームの設置、下部消化管内視鏡検査の前処置室の設置と便所の増設などが行われました。

われわれ内視鏡センターに勤務するスタッフは「**患者さんにやさしい内視鏡診療と高度な先進的な内視鏡診療**」を目標に安全な内視鏡診療を遂行していきたいと考えておりますので引き続きよろしくお願い致します。



チーム医療の紹介＝呼吸ケアチーム＝



呼吸ケアチームメンバー

病院には、呼吸の補助が必要なため、人工呼吸器を装着されている患者さんがおられます。当院には、そのような患者さんを対象に、安全かつ早期に人工呼吸器がはずれることを目的とする「呼吸ケアチーム」があります。また、外科の肺・食道疾患の患者さんには、手術前後で呼吸器合併症の予防を目的とする「呼吸リハビリチーム」があります。今回は、この2チームについてご紹介します。

「呼吸ケアチーム」では、人工呼吸器が装着されている患者さんの訪問を週1回行っています。訪問では、医師や薬剤師、栄養士による呼吸器の調整や薬剤・栄養剤の検討、理学療法士や看護師による呼吸リハビリやベッド上での体位の工夫、臨床工学技士による適切な機材の検討、また歯科衛生士による口の中の評価と、清潔方法についての指導などを行っています。また、月1回、呼吸器装着患者さんに安全で質の高い医療・ケアが提供できるように、多くの職員が参加できる研修会も開催しています。

「呼吸リハビリチーム」では、肺と食道疾患で手術を受けられた患者さんを中心に肺炎などの合併症を予防する目的で、術後1日目から起立や歩行訓練を理学療法士が行い、早期離床につながっています。また、食道疾患では手術前から口の中を清潔に保つことが合併症の予防につながると言われており、歯科衛生士による専門的な歯磨き方法や、口の中を清潔に保つ方法について患者さんへの指導も行っています。

このように当院では、多くの職種によるチーム活動が活発に行われています。専門職種からなるチーム活動が、患者さんの合併症予防、早期回復にお役にたてるよう努力していきたいと思っています。



チームによる患者訪問



集中ケア認定看護師
鈴木 美香



歯科技工士を 知っていますか？



こんにちは、安佐市民病院歯科 歯科技工士の山崎です。

患者さんに接する機会が減多にないため、あまり知られていませんが、これを機会に私の仕事を知っていただければと思います。

多くの歯科技工士は歯科医院や歯科技工所で患者さんの歯型をもとに、詰め物・かぶせ物・入れ歯・矯正装置を製作または修理しています。

総合病院内の歯科で働く私は、他科と連携し以下のような特殊な装置も製作しています。

- ・睡眠時無呼吸症候群に使用する装置
- ・嚥下や発音を補助する装置
- ・口腔内手術後の止血装置や顎義歯
- ・放射線治療を補助する装置
- ・歯の食いしばりを防止する装置など

また、口腔ケアの一環として入院患者さんの入れ歯の清掃や修理も行っています。

これからも、患者さんが自分の口で美味しく食べることができ、笑顔で過ごしていただけるように、オーダーメイドの人工臓器としての歯科技工物を製作（修理）するよう心がけていきたいと思っています。



つばさ友の会「新年かるた大会」

糖尿病の患者会「つばさ友の会」では糖尿病患者さんと病院スタッフ、また患者さん同士の親睦を深めるため運動療法を兼ねた病院周辺のウォーキング、知識を深めるための研修会など年間を通じて様々な交流の場をもうけています。

1月19日（日）には恒例の【新年かるた大会】を行いました。当院WAPセンター（体育館）で1／6畳ぐらいの大きさのかるたを用いて、糖尿病の療養に関わる内容の読み札で楽しく知識を深めることが出来ました。もちろん運動療法も兼ねています。かるた大会の後は、約600Kcalに調理されたお弁当を食べるお楽しみの時間もありました。糖尿病や、その治療に関する日常の疑問など、スタッフと一緒に考える絶好の機会となりました。糖尿病の患者さん、御家族の皆さん、是非一度「つばさ友の会」の行事にご参加下さい。



薬剤部
後藤 千栄



超音波検査士

病院にかかると医師がいろいろな検査を依頼します。血液検査、尿検査、心電図検査、超音波検査（エコー検査）、細菌検査など臨床検査技師がそれぞれの分野で幅広い検査領域に対応しています。そこでより専門の知識と技術が必要なエキスパートとしての認定資格が各種あり、そのひとつに超音波検査士があります。

超音波検査士とは、体表臓器、循環器、消化器、泌尿器、産婦人科、健診、血管の7領域にわたり、超音波の優れた技術や知識を有するコメディカルスタッフを専門の検査士として認定した制度です。

私は、2007年に循環器領域を取得しました。資格取得後も検査技術の向上に努めることで、心臓の動き、弁膜症の程度、心臓の拡大の有無など、精度の高い診断の一助となるように努めています。また、検査部位は心臓だけでなく、最近では足の血管（下肢動脈、下肢静脈）、腎臓を栄養している血管（腎動脈）等にも対応し、血管の細さや、血栓の有無の評価を行い、診断の手助けをしています。疑問な点がありましたら、お気軽にお声をお掛け下さい。



臨床検査部

三宮 信雄



食養委員会

管理栄養士 中佐 庸子

病院の食事は医療の一環です。食養委員会では、入院患者さんの治療に効果的で、安全でおいしい食事が提供できるよう検討しています。委員会のメンバーは医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師等で、毎月1回話し合いを行っています。

生活習慣病等で食事制限の必要な方、嚥んだり飲み込んだりする力が弱くなっていらっしゃる方、化学療法で食欲が落ちていらっしゃる方など、さまざまな患者さんがいらっしゃいます。その方にあった適切な食事を提供することを目指しています。

昨年から、患者給食から出る残食を減らす取り組みを開始しました。残食を調べてみると「ご飯」が多く残っていることが分かりました。多すぎる主食は患者さんと精神的な負担となります。「残食を減らそうプロジェクト」の第一段として、患者さんに合わせた適量の主食を提供できるよう、主食量の聞き取りの徹底をスタッフに呼び掛け、また患者さんにも協力していただいています。

今後も患者さんに満足していただける食事を目指して、患者給食の改善を進めていきますので、よろしくお願い致します。

「残食を減らそうプロジェクト」として、病院スタッフに標語を募集しました。その優秀作品です。

- 1位 あっ!食べた!自信につながる「小」ご飯
- 2位 「多くない?」声かけ一つの気遣いを
- 3位 「ごちそうさん」適量ご飯でみんなが笑顔



皆様、理容室でがんす



理容室 川崎 康子



病院内で理髪店を営んでおります川崎です。娘と2人で働いております。

安佐市民病院で店を始め、随分と時が経ちました。入院患者さん、付き添いの方、外来で来られた方、職員の方、沢山の方々に支えてもらい、様々な出会いの多いこの場所で成長させてもらい感謝しております。

退院されてからも手紙を頂いたり、遠方から散髪に来て下さったり、顔を見にのぞいて声を掛けて頂いたり、皆様に可愛がって頂いております。

この理髪室が待ち合わせ場所になったり、話をしたり、食事をしたりと憩いの場となってもらえるように、これからも日々精進してまいりたいと思っております。

お客様が髪を切って「あー、気分が良くなった」、「また来るけえの」と嬉しそうな顔を見ることがとても嬉しく大好きです。

皆様、いつもご利用ありがとうございます。これからもご愛顧宜しくお願い致します。

国際ソロプチミスト広島 児童図書100冊を寄贈

女性ボランティア団体「国際ソロプチミスト広島」より、1月14日、100冊の児童図書を寄贈していただきました。小児科病棟にて子ども達の楽しみのひとつとなっています。

同団体は、様々な奉仕活動の一環として市内の病院に本を贈り続けていらっしゃいます。

「親子で楽しく本を読んでもらい、早く元気になってほしい」とおっしゃるみなさまの思いを受け、入院児童の心の癒しとして大切にに使わせていただきます。



ボランティアコンサート

当院では不定期に、ボランティアコンサートを開催しています。コーラスやクラシックの多重奏など演目も多種多様、奥様から学生さんまで年齢も様々です。中には全国で活躍されたプロの方もおられます。

みなさん、少しでも患者さんに笑顔を与えられたらとの思いで来てくださっています。これからもこうした多くの方のお気持ちに支えられながら、患者さんやそのご家族に喜んでいただけるよう、ボランティアコンサートを続けていきたいと思っています。



「可部っ子、花いっぱい大作戦」が行われました!

可部の街をきれいに明るく楽しくするために、可部中学校、可部小学校、可部南小学校の3校が毎年協力して行っている「可部っ子花いっぱい大作戦」。本年も可部南小学校の生徒のみなさんが、自分たちで育てたパンジーのプランターを届けに来てくださいました。

色とりどりのかわいい花がたくさん咲いたこれらのプランターは、正面玄関入り口付近に設置させていただきました。安佐市民病院は子ども達と一緒に、可部の街が笑顔あふれる街になるよう祈っています。

